

## 《わがまちのお宝 佐世保市》

### 西海国立公園「くじゅうくしま九十九島」

佐世保市企業立地・観光物産振興局  
観光・九十九島グループ

#### 1. 「九十九島」とは

「くじゅうくしま九十九島」は、九州の北西部、日本本土最西端の地「佐世保」にあります。

佐世保港の外側から北へ約25kmにわたり点在する美しい島々のことを言い、1955年（昭和30年）に日本で18番目となる国立公園として平戸、五島とともに指定された「西海国立公園」の中核をなしています。

「我が国の風景を代表するに足りる傑出した自然の風景地」（自然公園法第2条）と定義される国立公園として指定された九十九島は、国立公園たる美しい景観と豊かな自然を有し、九十九島遊覧船やヨットクルーズのほか最近ではシーカヤックの人気も高まるなど、年間約150万人の観光客を集める人気観光地であるとともに、佐世保市民の誇りであり、貴重な財産として大切に守り育まれています。



#### 2. 九十九島の島数は？

「九十九島」というその名前から、島の数が99個あるのかと思われがちですが、実はその数は208！ 島の密度は日本一と言われています。

この島の数についてですが、実は大変な苦勞をして数えた経緯があります。

1999年（平成11年）、佐世保市では、この年を「九十九島の年」、9月19日を「九十九島の日」

と定め、九十九島のPRを大々的に行いました。

一年を通じて九十九島にこだわった「九十九島キャンペーン」や「九十九島の祭典」など様々なイベントを開催しました。

しかし、このときに改めて気づかされたことがあります。「九十九島の数」は一体いくつだろう？

- ・1950年（昭和25年）に国立公園の指定に向けた基礎調査として、東京大学の田村講師に委託した調査では「大小約170の島々」、
- ・環境省によると「約200の微小島しょ」、
- ・また、長崎県が1953年（昭和28年）に発行した西海国立公園基本調書では「205」、

とされており、いずれも明確な根拠と調査方法が記されていないのです。

それもそのはず、そもそも「島」とは？

当時の法務省や外務省、海上保安庁、国土地理院などにも「島」の定義を確認しましたが、「島の数を数える」ことができるような内容ではありませんでした。

そして、1999年11月から2001年3月まで約1年4か月に渡る、市民と行政が一体となったの大掛かりな調査（会員45名からなる「九十九島の数」調査研究会を結成）が始まりました。

九十九島の範囲、島の定義、島を数える方法など財団法人日本離島センターから島の専門家を招くなど議論に議論を重ねた結果、

「島」とは…

- ・自然に形成された陸地であって、高潮時において、水に囲まれ水面上にあるもの
- ・植生が認められること

「九十九島」の範囲は…

- ・佐世保市、小佐々町、鹿町町、田平町に所属する西海国立公園に指定された海域内、及び佐世保市の黒島、浮瀬を含む

と独自の基準を定め、2,500分の1の地図上で島の数を数え、地図上であいまいな部分について



現地調査の様子



九十九島の数の発表

は船に乗って海上から確認をし、さらには飛行機に乗って上空から数えたりもしたのです。

そして、2001年4月1日、この調査研究の結果として、九十九島の島の数を208として発表したのです。

### 3. 九十九島の調査研究を担う「九十九島調査室」

以上のことに代表されるように、美しい景観と豊かな自然環境を有し、佐世保市民の誇りであり財産であるとしていた九十九島について実は基礎的な情報が不足していることがわかり、改めて九十九島の調査研究、情報の蓄積に取り組み始めました。

結果、日本で2例目となるマメ科のつる性植物「トビカズラ」の生息が確認されたほか貴重な動植物の生息状況が次々と認められ、改めて九十九島の自然の豊かさが明らかになってきました。

これらの調査結果はテレビ、新聞報道や情報誌等などにより様々な形で情報発信され、これまでと違った形で九十九島が知られるようになり、九十九島の知名度向上にもつながったとともにこれまで以上に市民の大切な宝として認められるようになりました。

現在では、「西海パールシーリゾート」の指定管理者であり、佐世保市が出資する第三セクターさせぼパール・シー(株)が「九十九島調査室」を設け専門のスタッフを配置し、九十九島に生息する動植物の調査や水質の調査を行っているほか、九十九島を構成する島々の名前の由来調査を地元大学と連携して行うとともに、九十九島に関する様々な活動を行う市民ボランティア組織「九十九島の会」の事務局を担うなど積極的な活動を展開しています。



「九十九島調査室」の活動風景

### 4. 西海国立公園九十九島水族館「海きらら」

このような様々な取り組みが行われている佐世保市の「九十九島地区」では、これまでの見るだけの観光に加えて、体験型の観光を展開するべく、国（環境省）、長崎県、佐世保市が連携して一体的に施設整備を行う「海のダイヤモンド計画」が進められています。

すでに多くの事業が完了しており、九十九島で確認された希少植物「トビカズラ」や佐世保市花に指定され九十九島を代表するユリ科の植物「カノコユリ」などが植栽され九十九島の特徴的な自然が身近に観察できる長尾半島公園、九十九島観光の発着地点「西海パールシーリゾート」

で海を感じながら散歩できる木製散策デッキ、九十九島の一つ高島の番岳頂上に設けられ、これまでと全く違った視点で九十九島を眺めることができる展望デッキなど次々に新たな魅力が加わっています。

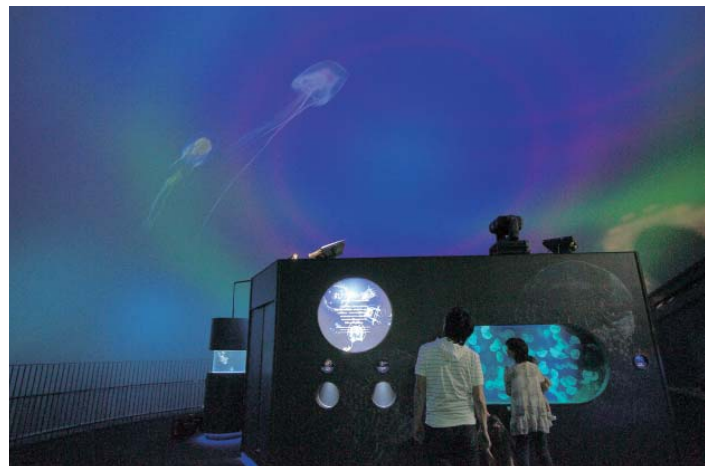
中でも目玉は、これまであった船の展示館やアイマックスドームシアター、ミニ水族館を備えた博物展示施設「西海パールシーセンター」を大規模に改修し、2009年7月にリニューアルオープンした「西海国立公園九十九島水族館“海きらら”」です。

新水族館は、国内では珍しい屋外型大水槽で九十九島の美しく豊かな海中世界を再現した「九十九島大水槽」や国内最大級のクラゲ展示数を誇るとともにドーム型のスクリーンに光と音楽そして映像が織り成す癒しの空間「クラゲシンフォニードーム」、イルカの息づかいが聞こえるほどの間近な距離でイルカたちを見ることができる「九十九島イルカプール」を設けるなど、普段見ることができない九十九島の海の世界をまるで海中散歩をしているかのように体感することができます。

大型のタッチング水槽「タッチングウォッチング」では子どもたちの歓声が響き、カブトガニの形の遊具や九十九島パズル、九十九島パソコンなどを備えたキッズコーナー「こどもひろばあまもば」では親子で楽しそうに遊びながら学ぶ姿が見られます。

また、2008年ノーベル化学賞を受賞された下村脩博士は、幼年期、青少年期の最も多感な時期を佐世保で過ごされたことから佐世保名誉市民として顕彰されるとともに、この「海きらら」の名誉館長に就任いただくことになっていますが、そのノーベル化学賞の受賞の対象である緑色蛍光タンパク質（GFP）の発見のきっかけとなったオワンクラゲの飼育展示も「海きらら」で行っており、その発光する様子も観察できます。

この「海きらら」はオープン以来大変好評で、当初、オープン初年度は24万人の来館者を目標



クラゲシンフォニードーム



九十九島イルカプール

としていましたが、オープンから2か月足らずでこの目標を達成し、このまま推移すると50万人を超えそうな勢いです。

また、クラゲ飼育・展示施設の充実が奏功し、開館間もない2009年12月に世界初となるキヨヒメクラゲの展示に成功、また、2010年1月には30分余りと短時間ではありましたが、その詳しい生態がまだ明らかにされていない深海魚リュウグウノツカイの生体展示も行われるなど、現在も話題が途切れません。

今後も特別企画展や季節展示を行うなどさまざまな取り組みを行い、さらなる集客と満足度の向上を目指します。

## 5. 「九十九島」の今後について

先にも述べましたが、「九十九島地区」で進められている「海のダイヤモンド計画」の一つである「九十九島ビジターセンター（仮称）」が2010年夏にオープンします。

これは、環境省が整備を行う施設で、九十九島を訪れる観光客等利用者の皆さまへ国立公園の貴重な自然等（動物・植物・景観等）を映像やさまざまな展示物を用いて紹介するとともに、その利用のルール・マナー等をわかりやすく案内するものです。また、当地のビジターセンターは調査研究や自然体験学習、ボランティア活動拠点としての機能も備え、九十九島地区のさらなる魅力向上と自然環境の適正利用が図られることが期待されます。

1955年の国立公園の指定以来、先人たちが守り・育み、そして現在へ伝え残してくれたこの貴重な財産である「九十九島」を今後も大切にしながら多くの方々にその魅力を伝え広げていくことに努めていきたいと思えます。

## 6. その他「九十九島」にまつわる話し

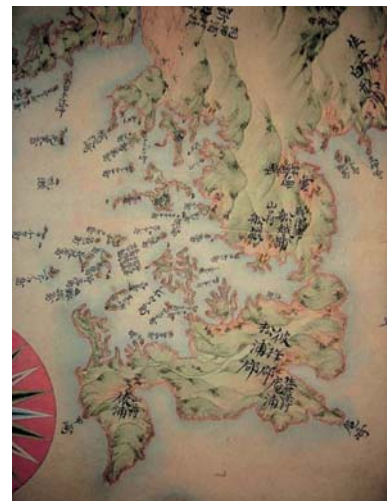
### ①伊能忠敬

「七十に近き春にぞ あひの浦 九十九島をいきの松原」<sup>(※)</sup>

日本全国を行脚・測量し、日本地図をつくった偉人、伊能忠敬は1812年に佐世保を訪れています。中でも九十九島については船に乗り測量するなど大変な力を入れようだったようです。

松浦資料館（平戸市）に所蔵されている「伊能図大図」に測量された九十九島の地図があります。

※1813年の正月を佐世保市相浦で迎えこの句を詠んだとされる。



伊能忠敬の測量図  
(松浦史料博物館提供)

= 「70歳に近い正月を相浦で迎えている…九十九島のように99歳まで生きたいものだ」と松原に想いをよせ詠んでいる。

## ②美しき天然



田中穂積

日本最初のワルツと言われ、サーカスのジンタとしても流行した「美しき天然」は、1902年に当時佐世保海兵団軍楽長であった田中穂積により作曲されました。

九十九島をこよなく愛したという田中穂積が武島羽衣の詩に仮託して作曲されたこの曲は当時の私立佐世保女学校の音楽教材として作られました。

郷愁を帯びたメロディーは国境を越えて遠く中央アジアでも演奏されているそうです。

## ③映画「ラストサムライ」

トム・クルーズ主演で俳優の渡辺謙さんがアカデミー賞助演男優賞にノミネートされたことで知られるハリウッド映画「ラストサムライ」。この冒頭シーンに日本を象徴する風景として九十九島が登場。九十九島の一つ「高島」のシルエットがスクリーンに浮かんだ瞬間、何も知らなかった佐世保市民の方々も「あっ」と驚いたとか…



映画「ラストサムライ」撮影風景

実はこのロケーションハンティング（通称ロケハン：映画やコマーシャル等、イメージにあった風景をあらかじめ調査し、撮影を行う場所・季節・時間等をきめておくこと）には監督のジョン・トール氏がお忍びで佐世保に来ており、写真集に掲載された九十九島の写真をもとに展海峰、船越展望所、石岳展望台を市の職員が案内した経緯があります。



九十九島サンセットガイド

ここで役に立ったのが、九十九島サンセットガイドというパンフレット。夕陽の落ちる時間や位置は季節や場所によって異なりますが、一年間の調査を行い、各展望所からの夕陽の落ちる時間や位置を示したもので、ジョン・トール氏も安心して仕事ができたとのことです。九十九島調査研究の成果が見えないところでも役に立っています。